

4・25法大デモへ!

2013年4月22日
No.106

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

4・19山本太郎さん企画が大成功!

4月19日、首都圏学生の新入生歓迎企画として、俳優の山本太郎さんと森川文人弁護士をお招きし、「山本太郎さんと語る4・19トークセッション」を行いました。首都圏大学から多数の学生が参加し、大成功しました。太郎さんは冒頭、「若い人は日本の未来。世の中を変えていきたいという純粋な思いを持った人たちに一番長生きしてほしい」と訴えました。

3・11原発事故以降、全原発廃炉に向かっている闘いに人生をかけて立ち上がった太郎さんの生き方、そこから発せられる情熱的な語りになが引き込まれていきます。太郎さんは、原発事故の隠蔽を図る政府を目の当たりにした怒りを語り、「この状況を変えなきゃと思った人たちがこの国を変える展望をつかんだ時に、健康でいてもらわないと困るんです」と訴えます。

また、マスコミや大学などが言いたいことも言えないような社会にしていくことに対して、「ただ利権を守りたいだけ。こういう社会をどう変えていくのか」「大資本に頼らなくても自分らでやれるんだということを示すことが社会を変える契機になる」と、3・11原発事故以降に明らかになった社会の腐敗を弾劾し、団結した行動で社会を変えていく展望を明らかにしてくださいました。

最後に「若い人がこれだけ頑張ってくれて自分にも勇気になります」と学生への期待を投げかけてくれました。

質疑応答では「安倍首相に対して言いたいことは何か」、「改憲についてはどうか」など活発な質問が出されました。とりわけ、「『3・11』を受けて人生を決断する過程は」との質問に、「国・マスコミの発表を見て、『殺される』と思った。『安全』としか言わない。国を信じてたら命を取られると思った」「東電が使っている宣伝費は260億円ある。電力会社全体で1000億円。それに対して声を上げる決断するのに3週間かかった。『仕事がなくなってしまうという自分』と『真実を知ってしまったのに声をあげない自分』がいた。そして、『また事故が起こっ



ても声を上げないつもりか』、『人をだませても自分はだませないだろう』と後者の方が勝った。『ただ生きていたい』という湧き上がる気持ちが勝っていった。みんなで生きていたい。この社会は他者がいて初めて成り立つもの』と、自らの決起の原点を語られました。

最後に武田雄飛丸君(法政大学文化連盟委員長)から、4・25法大解放集会ーデモ決起へのアピールが行われました。

昨年の10月6日、御用学者、大久保利晃の講演会を批判したことで「無期停学」処分を受けたことに触れ、

「学生が主体的に考え、行動することをどの大学も徹底的に奪っている。一方で学生運動や反原発運動を弾圧して、『地域に開かれた大学』と言っている。教授は『学外でピラを受け取るな、署名をしないでください。巻き込まれますよ』と言い、学生の存在をおとしめている。『巻き込まれる』存在としてしか見ていない。学生を『都合のいいサービス受給者』としてしか見ていない。こういうあり方をふっ飛ばしたい。4月25日には新入生に対して『大学とはこういう場じゃないんだ』『自由にものが言える場なんだ』ということを示したい」と訴えました。

今回の企画の成功を引継ぎ、法大生・首都圏学生は、山本太郎さんと心一つに4・25法大闘争から5月沖縄現地闘争の爆発へ突き進みます。(首都圏学生・HM)

不当処分撤回! 大学の主人公は学生だ!

4/25 法大解放総決起集会

規制はいらない! 原発止めよう! 文化連盟とともに声をあげよう!

4月25日(木) 12:40~ 法政大学正門前に集合
13:30~ 法大包囲デモ(新入生歓迎デモ)に出発
呼びかけ: 法政大学文化連盟

(<http://08bunren.blog25.fc2.com/> bunren08@yahoo.co.jp)



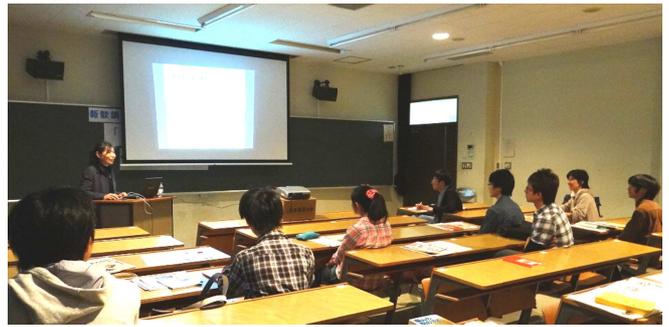
広大で佐藤幸子さん講演会打ち抜かれる！

広島大学では学生自治会再建に向けて、4月開講日から九日間で200枚近くもの自治会建設への意見・要望が集まっています。

「学生自治会のように上の立場からの圧力を気にせず意見できる団体は必要だ」「原発反対」「原発事故に対する広島大学の対処を詳しく知りませんでした。もっと周知をした方がいい」「学費と学食を安くしてほしい」「学部を超えた交流を」等々……学生生活に関することから福島原発事故に関する大学の在り方まで幅広い意見が寄せられています。大学の法人化以降、経営協議会が我が者顔で大学の方針を決定し、福島第一原発事故が起こった後でさえも放射能安全キャンペーンを行う御用学者を福島へ送り出す、こういう大学の在り方が社会的に明らかになりました。そして、同時に「大学の在り方はこれでいいのか」という問いも学生の中から沸き起こっています。

4月19日、そういった御用学者の被曝隠蔽と現地で闘う佐藤幸子さんをお招きし、新歓講演会『フクシマから大学を問う』を開催！自治会準備会やクラス入りを通じて企画に関心をもった新入生を含む15名の参加で大成功しました。

最初の1時間は佐藤幸子さんの講演。3・11以前の自然農による自給自足の暮らしの話から始まり、3・11以後の文科省による20ミリSV基準設定や福島県立医科大学が実施する県民健康調査への不信感、広大の神谷教授への怒りが語られました。特に考えさせ



られたのは、佐藤さんが3月31日に自分達で計測した空間線量のデータを公表するために記者会見をしよう会場へ向かった際、すでに神谷教授が記者会見を行っており、そこで神谷は「福島は大丈夫」「屋内退避区域以外の子どもはほとんど外で遊ばせて下さい」と発言していたことでした。そして、最後に原発事故を引き起こした根本的な原因は「教育の間違いから引き起こされた人災」であり、机上だけでなく、現場で学ぶことの重要性を訴えられました。

続いて、学生自治会準備会の百武代表は「広大に学生自治会をつくらう！」と提起。広大は建前としては「福島の支援のために原医研の神谷教授を派遣している」と言っていますが、しかし実際には現地で健康被害が始まっていることを語り、「それに対して責任を取らないといけない」。さらに、4月開講以降のクラス入りを通して、「学生はよく考えている」「学生の意見が反映される大学にしていこう」と意気込みのある報告と決意。さらに、学生の意見から立てた広大自治会建設に向けた3本のスローガンの案と前期の闘う方針を明らかにしました。

質疑応答では、「3・11以降、自分の中で変わった認識はありますか？」という学生の質問に対して、佐藤さんは「世の中を変えるのに自分が変わらなければ変わらない」と答え、学生への期待を感じました。参加した新入生は「面白かった」と感想を述べています。広島大学自治会準備会はフクシマとつながった広大学生自治会建設へ向けてさらに前進していきます。トゥージェン！（広大・H）



尼崎事故弾劾！外注化阻止・非正規職撤廃！

4・20 尼崎集会・デモ打ち抜かれる！

【当面する行動方針】

○4・28全国集会

4月28日(日、沖縄デー) 13時

主催 とめよう戦争への道！百万人署名運動

福島・沖縄の怒りとつながり、国際連帯で改憲と戦争をはばもう！

ハイライフプラザいたばし (板橋区板橋1—55—16)

○5・1新宿メーデー

▼JR貨物本社抗議闘争＝JR新宿駅東南口集合 (12～13時)

▼デモ 14時 新宿中央公園「水の広場」集合 (新宿区西新宿2—11)

14時半 デモ出発

▼集約集会 15時45分開会 新宿文化センター (新宿区新宿6—14—1)

よびかけ 動労千葉・動労総連合



○5・9法大暴処法弾圧裁判第三回控訴審

5月9日(木) 13時半～ 東京高裁にて

※傍聴券配布のため30分前に裁判所脇に集まって下さい

○5・17武田君処分撤回第二回裁判

5月17日(金) 11時～ 東京地裁にて

※傍聴券配布のため30分前に裁判所脇に集まって下さい